

第5学年社会科 「日本の稲作農家の二つの姿」

学習指導者 滝井 康隆

単元の概要・子供と共有した目標 自らの目標に向かう姿

普段自分たちが食べている米を生産している農家の姿を正確に理解するために、新潟県の米作りや生産された米の流通経路などを調べていった。その後、耕作規模によって収入が違うこと、大規模生産の効率のよさに気付いた子供たちは、小規模農家についても調べを進め、日本の稲作農家が担う役割について考えを深め、今後の稲作農家の在り方について考えをもととしていきました。

見通し 問題を発見して、課題を設定する姿

まず既習事項である、大規模農家数は増加しているが、小規模農家数は減少していることなどを確認した。その後、「目当てを決めるために何をすればよかったかな」と問いかけ、「自分が考えたいことが、みんなで考えるべきことか話し合っただけで決める」という方法の想起を促した。個人で疑問を考えノートに記述する時間、班で話し合う時間、班長が集まって課題を設定する時間を設けた。班長が集まり本時の課題について話し合う際には、それぞれの疑問についてみんながどれくらい話し合いたいかを聞きながらいくつかの候補の中から一つに絞っていった。

個人で疑問を考えノートに記述した後、班でそれぞれの疑問について「学級で話し合うべきか」といった観点で話し合い、一つの疑問に絞っていった。



小規模農家はどんどん減っていくのかな。

小規模農家が減って大規模農家が増えているのはなぜかな。

班長会議では、それぞれの班で絞った疑問について伝え合い、互いの疑問に共感しながら、本時考えたいものはどれかを話し合っただけで、学習課題を設定していった。



そうだね。それにしよう。

小規模農家は今後どうなっていくのか考えたいよ。

小規模農家はそのまま減っていてもよいだろうか

行動 諦めずに試行錯誤する姿

小規模農家の数が「減ってもよい」か「減ってはいけない」か理由を考えるよう促し、考えの異同に気を付けて自由に交流することができるような場を設定した。その後、全体で話し合い、大規模農家と小規模農家の役割について理解が深まるよう、それぞれのよさについて意見をまとめていった。

減ってもいいと思う。大規模農家が米の生産をしているし、その方が米が安くなる。



多くの子供たちが「減ってはいけない」と考え、小規模農家の必要性を主張した。一方で大規模農家が米の生産を支えているという意見も出され、それぞれの役割の違いを明確にしていった。

振り返り 自らの学びを正確に捉える姿

本単元までに、「自分ができたことやその理由」「次に考えたいこと」を振り返るよう指導してきた。単元の予定時数分、記述欄を用意しておくことで現在何時間目まで学習が進んでいるのかを視覚的に把握しやすくした。また、学習支援アプリを使うことで、互いの振り返りを参考にできるようにした。

減ってもいいか自信がなかったけど、同じ「減ってもいい」という人の意見を聞いて納得しました。



自分の考えが作れた理由を想起し、友達の話聞いたことや資料を見るなど、学び方について振り返りを記述していた。

考察 (○：成果、▲：課題)

- 感じた疑問を記述し、学習課題としてふさわしいかを話し合うという経験を積んでいくことで、問いをもちやすくなってきた。また、自分たちで課題を設定することで意欲的に取り組むことができた。
- ▲ 個人で記述した疑問と学級で設定した課題が違った場合に何らかの手立てが必要である。班長会議の際に班長だけでなく、全体で学習課題設定の理由を確認したほうがよい。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧いただけます。

